

総合工学委員会  
原子力安全に関する分科会（第24期・第3回） 議事録

1. 日 時 平成30年4月24日（火）10:00～12:00

2. 場 所 日本学術会議5階 5-C(1) 会議室

3. 出席者（敬称略）

【委員】 矢川元基、柘植綾夫、野口和彦、大倉典子、上坂充、佐倉統、柴田徳思、関村直人、竹田敏一、松岡猛、向殿政男、森口祐一、山地憲治、越塚誠一

【事務局】 柳原情子

4. 配布資料

資料1	前回議事録
資料2-1	福島第一原発事故調査に関する小委員会設置提案書
資料2-2	〃 委員名簿
資料2-3	〃 議事録（第1回）
資料3	原子力連絡小委員会議事録（第1回）
資料4	提案（案）「我が国の研究用原子炉の在り方について」
資料5	分科会活動歴
資料6	原子力総合シンポジウム2018の構想案

5. 議 事

1) 前回議事録の確認

- ・前回合は第1回であり、メール審議が第2回になる。
- ・既に各委員にはメールで配布されており、本会合にて承認された。

2) 小委員会からの報告

(1) 分科会の活動歴について

- ・資料5を用いて、矢川委員長より、本分科会の活動歴が紹介された。
- ・報告「チェルノブイリ」翻訳、を、記録「チェルノブイリ」翻訳2013.3、に修正
- ・シンポジウム「原子力総合シンポジウム」2015.4.16、を追記
- ・報告が記録に変更された経緯について説明された。

(2) 原子力連絡小委員会

- ・資料3を用いて、山地委員より説明があった。
- ・4月9日（月）に第1回会合を開催し、人事（委員長：山地憲治、副委員長：上坂充、幹事：吉見卓、飯本武志）、原子力総合シンポジウム、外部評価、大型研究計画等について議論した。

- ・資料6を用いて、柘植副委員長より、原子力総合シンポジウムの構想案の説明があった。
- ・テーマⅡ（将来のエネルギー）の①講演については、資源エネルギー庁のエネルギー基本計画が公表されるため、その関係者で、資源エネルギー庁の方がいいのではないか。
- ・②パネル討論については、原子力支持、再生エネルギー支持、ユーザーの立場から意見交換するのがいいのではないか。
- ・山地委員がモデレータとして加わる。
- ・矢川委員長が総合司会を担当する。
- ・テーマⅠ（原子力防災）は上坂委員が人選を取りまとめる。テーマⅡは山地委員と上坂委員で相談して人選を取りまとめる。
- ・公開シンポジウムの申請を学術会議におこなう必要があり、5/20までに人選案を矢川委員長に送ることになった。用紙は学術会議事務局より送ってもらう。
- ・大型研究の中に原子力関係の研究課題が少なく、問題である。
- ・大型研究には、設備的なものと連携的なものの2種類がある。設備的な計画はそれを主体的に進める組織が必要。

### (3) 福島第一原発事故調査に関する小委員会

- ・資料2を用いて、松岡委員より報告された。
- ・津波の経緯についてまとめることとした。
- ・日本大学の中村晋先生に委員に加わっていただく。
- ・4月10日（火）に会合を開催し、人事（委員長：松岡猛、幹事：澤田隆）を決定した。
- ・国会事故調報告書に記載されている地震動による損傷について、津波の経緯の報告書の中で再度触れてはどうか。→小委員会で検討してみる。
- ・事故調査では、事実関係だけでなく、可能性についても検討しておくべき。
- ・共通の理解のためのコミュニケーションが重要である。

### (4) 研究用原子炉の在り方検討小委員会

- ・資料4を用いて、柴田委員より報告された。
- ・5月22日に第1回会合を予定している。
- ・提言が小委員会で承認され、第三部の査読を受け、コメントが示された。現在コメント対応を実施中。
- ・表題について、以前の提言と同じとの指摘があり、変える予定。
- ・研究炉として、照射用原子炉とビーム炉の必要性が書かれている。
- ・原子力発電所の安全性向上のために研究炉が位置づけられることから、副題を付してはどうかとの意見があった。

### (5) 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会

- ・森口委員より報告があった。
- ・5月7日に第1回会合を予定している。

- ・ 2つのワーキンググループを設置し、既に活動を始めている。
- ・ チェルノブイリでは IAEA が事故の 20 年後に報告書を出している。まだ先になるが、福島事故でも同様のとりまとめが必要ではないか。

(6) 社会における原子力安全検討小委員会（仮称）

- ・ 前回議事録に記述されているように、野口委員、大倉委員、佐倉委員、向殿委員が発足に向けた活動を始めることになった。

3) その他

(1) 「学術の動向」について

- ・ 「学術の動向」に、原子力総合シンポジウムの内容を掲載してもらうようにしてはどうか。
- ・ 編集方針が変わり、読者の関心が高い内容が必要。
- ・ シンポジウム開催に前もって登壇者には「学術の動向」の執筆をお知らせしておく。
- ・ 柘植副委員長と大倉委員が担当することになった。

(2) 次回日程

- ・ 7月および9月初旬で、幹事がメールで日程調整することになった。

以 上